

福井県立恐竜博物館 2022年春の企画展
「比べて楽しむ古生物の世界」

1 趣 旨

「比べる」ことは、古生物の研究では欠かせない手法の一つである。例えば、絶滅生物の姿や生態を知る手がかりは、化石として残った断片的な情報しかないが、現生生物と比較することで、当時どのように生きていたかを推測できる。このような古生物研究の一手法の紹介として、本企画展では「比較」をテーマとした。化石となった太古の生物と、今生きている生物を比べることで、恐竜をはじめとする古生物をより身近に感じて、その生態や進化に触れる場とする。

また、2023年夏のリニューアルオープンに伴い、現特別展示室を使用した展示は今回が最後となる。そこで、節目の企画展として、これまで当館が収集した貴重な標本の中でも展示の機会が少なかった一押しをの標本を多数用いている。多種多様な標本の比較を通して、来館者の古生物学への関心を高める機会を提供する。

2 内容等

(1) 展示内容

ア 第一章：パーツくらべ

「パーツくらべ」をテーマに、恐竜をはじめとする化石と、現生の標本を並べて展示し、歯や皮膚といったパーツごとに比較する。カルカロドントサウルスの下顎の一部や、ハドロサウルス類皮膚痕化石などの実物化石が初公開されるほか、現生の骨格標本などを展示する。

- ①エドモントサウルス・アネクテンス頭骨（実物）
- ②ホプロフォネウス・ロブスタス頭骨（実物、初公開）
- ③カルカロドントサウルスの下顎一部および歯（実物、初公開）
- ④ハドロサウルス類皮膚痕化石（実物、初公開） など

化石標本 23点（うち実物11点）

現生標本 21点（うち実物20点）

イ 第二章：“生きている化石”のいま・むかし

「“生きている化石”のいま・むかし」をテーマに、いわゆる“生きている化石”と呼ばれる、太古の昔から生き続けている生き物を中心に、化石と現生標本の形を比較する。貝類のコレクションや植物化石などの多くが当館初公開となる。

- ①ニッポノマリア・ヨコヤマイ（実物、初公開）
- ②メタセコイア・オッキデンタリス（実物、初公開） など

化石標本 21点（うち実物19点）

現生標本 11点（すべて実物）

ウ 第三章：仲間ではない似たもの同士

「仲間ではない似たもの同士」をテーマに、異なる分類群に属しているが、生態がよく似ている生き物の収斂進化を学んだり、ある植物化石を名前の由来となった動物と比較したりと、化石を現生に当てはめることによって、古生物へのより深い理解を促す。スピノサウルスの上顎など20年ぶりに公開となる実物化石に加え、スコミムスやレドンダサウルスといった大型骨格標本も展示する。

①チャンプソサウルス・ララミーエンシス全身骨格（実物）

②スコミムス・テネレンシス全身骨格（複製）

③レドンダサウルス全身骨格（複製）

④スピノサウルス・アエジプチアエカス上顎（実物、20年ぶりに公開） など

化石標本 12点（うち実物9点）

現生標本 6点（すべて実物）

ほか、「イントロ」と「おまけ」にて11点（うち実物8点）の標本を使用
標本点数全105点、うち実物84点（増減の可能性あり）

(2) 会場

福井県立恐竜博物館 3階 特別展示室

(3) 期間

令和4年3月19日（土）から令和4年5月8日（日）まで

(4) 主催

福井県立恐竜博物館

(5) 後援（今後依頼）